

農 研 速 報

平成 25 年 7 月 30 日発行
 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室
 〒301 - 0816 茨城県龍ケ崎市大徳町 3974
 TEL 0297 - 62 - 0206 FAX 0297 - 64 - 0667

作物名(大豆)

県 名	生育ステージ		生育の状況	問 題 点	これまでに講じた対策 及び今後の方針
	本 年	平年対比			
茨 城 県 (龍ヶ崎市)	タチナガハ 第 11 本葉 展開期	平年並	<p>6 月第 5 半旬から 7 月第 5 半旬までの気象概況は、平年と比較して日平均気温が 0.6 高く、日照時間は平年比 110%、積算降水量は平年比 47%であった(龍ヶ崎アメダスデータ。平年値は直近 5 ケ年の平均値)。特に 7 月 1 日から 7 月 25 日までの積算降水量は 1.5mm と少なく、多照・寡雨で推移した。</p>	特になし	<p>1 回目の中耕培土を 7 月 12 日に子葉節まで、2 回目の中耕培土を 7 月 22 日に初生葉節まで実施した。</p> <p>紫斑病及び英害虫の発生に注意する。薬剤の準備を早めに行い、適期防除に努める。</p> <p>開花期以降の水分不足は着莢数の減少につながるため、必要な場合は灌水を行う。</p> <p>病害虫の発生動向については、病害虫防除所のホームページを参照する。 (http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/)</p>
	納豆小粒 第 11 本葉 展開期	平年並	<p>生育ステージの遅速は、タチナガハ、納豆小粒ともに第 11 本葉展開中で平年並である。</p> <p>地上部の生育は、タチナガハは主茎長、分枝数、茎の太さがいずれも平年を上回り、生体重は平年よりかなり重い。主茎節数はやや多い。</p> <p>納豆小粒もタチナガハと同様の傾向を示した。すなわち主茎長、分枝数、茎の太さがいずれも平年を上回り、生体重は平年よりかなり重い。主茎節数は平年並(表:7 月 25 日調査時点)。</p> <p>生育量が平年より上回った要因として、播種前後の降雨により発芽とその後の生育が良好であったこと。また、7 月以降は日照が多く、降水量は少なく推移したことが考えられた。</p> <p>現在の生育状況は図 1 の通りである。</p>		

表 生育診断調査(7月25日調査、播種後35日)

品 種	開花期			主茎長			主茎節数			分枝数			茎の太さ			地上部生体重		
	本年 (月日)	前年差 (月日)	平年差 (月日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	-	-	-	36.9	185	125	10.7	137	105	2.5	-	313	7.7	154	133	70.3	562	202
		(8月6日)	(7月31日)		(19.9)	(29.6)		(7.8)	(10.2)		(0.0)	(0.8)		(5.0)	(5.8)		(12.5)	(34.8)
納豆小粒	-	-	-	32.4	158	114	10.9	125	104	2.9	-	181	7.5	179	136	57.0	435	189
		(8月10日)	(8月7日)		(20.5)	(28.3)		(8.7)	(10.5)		(0.0)	(1.6)		(4.2)	(5.5)		(13.1)	(30.2)

試験場所: 農業研究所水田利用研究室内圃場(龍ヶ崎市、中粗粒灰色低地土)。

()内は前年値又は平年値。平年値は平成19年～23年(5ヵ年分)のデータの平均値(平成24年は天候不順により播種期が7日遅れたため除外)。

茎の太さ: 第1節(子葉節)と第2節(初生葉節)の中間で最も太い部分を測定した。

耕種概要: 6月20日播種、11.1株/m²(畦間60cm×株間15cm)1本立て、施肥量; N-P₂O₅-K₂O:0.3-1.2-1.2(kg/a)



図1 農研水田利用研究室圃場における生育状況(7月25日撮影)

播種日: 6月20日、栽植密度: 11.1株/m²(畦間60cm×株間15cm)1本立て、施肥量(kg/a): N-P₂O₅-K₂O=0.3-1.2-1.2